

12月から「語り部講話が視聴」できます

9月以降、校外学習や視察研修として、資料館を見学される団体来館者（10名以上）が増えています。8月中の団体来館者は491名でしたが、9月は1,070名、10月では1,831名の来館者がありました。この結果、今年度における10月末までの全体の来館者数も20,650名（昨年からの開館累計：58,857名）を数え、そのうち団体は、199団体、6,593名（昨年からの開館累計：519団体、16,091名）となりました。資料館の見学メニューでも大変好評な語り部講話は、今年度における10月末までの団体来館者のほぼ半数の97団体、3,824名（昨年からの開館累計：258団体、9,288名）の方々に実施し、聴講者らに深い感銘を与えています。

語り部講話は、教訓の継承という観点から、広く多くの方々に聴講していただくべく、昨年10月からは、個人の方でも団体と一緒に講話を聴ける仕組みに対応するなど改善を行ってきています。今後は、その裾野をさらに広げるべく、語り部の講話の様子をビデオ撮影し、DVDに収録したものを視聴いただけるように準備を進めています。視聴期間は、12月から2月までの3ヶ月間で、視聴場所は、資料館2階の資料閲覧室前ロビーを予定しています。

今後とも、イタイイタイ病の教訓を伝承する「語り部講話」の制度充実に向け、工夫を続けていきます。



2階の資料閲覧室にも、ぜひお立ち寄りください

連日、多くの方々に資料館を見学いただいておりますが、あまり、皆さんが立ち寄られることのない、2階の資料閲覧室についてご紹介いたします。

資料館のコンセプトは、見学を通じて「イタイイタイ病の恐ろしさ」を知り、「克服の歴史」を学び、より多くの方に「環境と健康を大切にするライフスタイルの確立や地域づくり」に取り組んでいただくための情報を発信していくことです。2階の「資料閲覧室」では、1階の展示室を見学され、イタイイタイ病に対する興味や関心をもたれた方が、さらに知識を深めていただくための図書や映像などを整備しています。図書の種類は、イタイイタイ病を含む四大公害病のほか、その他公害に関する図書、環境関係、とやまの郷土史、小学生などにも対応した児童書など、約1,200冊で、すべて閲覧可能となっています。このほか、月刊誌などの定期購読誌やイタイイタイ病に関する詳細情報などを検索できる専用端末機も3台あります。この端末では、映像用の視聴設備も兼ねており、イタイイタイ病の患者家族などの証言映像やガイダンス映像などがご覧になれます。このほか、これまでに来館された学校から、子どもたちが資料館見学後に学習成果としてまとめた資料やレポートなども広く紹介しています。

資料館の見学の際には、ぜひ2階の資料閲覧室にも足をお運びいただき、見聞を広めていただければと思います。

